

福島工業高等専門学校	産業技術システム工学専攻（化学・バイオ工学コース）（R4年度から）	開講年度	令和06年度（2024年度）
------------	-----------------------------------	------	----------------

学科到達目標

応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野の教育・研究を行う。化学・バイオ工学科（準学士課程）専門分野の基礎学力をさらに充実させ、その専門性を高める。さらに、現代の応用化学分野・生命工学分野及びそれらの関連分野における先端技術やその動向に柔軟に対応できる人材を育成する。

このコースの教育研究は、復興人材育成特別プログラムの放射線計測関連分野に関係しており、廃炉技術の重要な一分野である放射線及び放射性物質の取扱いの分野で活躍できる人材も育成する。

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分	
					専1年				専2年						
					前	後		前	後						
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
一般	必修	SDGs 探究	0006	学修単位	2	2								笠井 哲	
一般	必修	現代英語 I	0007	学修単位	2	2								本田 崇洋, 大須賀 綾心	
一般	選択	現代英語 II	0008	学修単位	2		2							小倉 恵美	
一般	選択	日本文化論	0009	学修単位	2	2								渡部 裕太	
一般	選択	グローバル研修	0013	学修単位	1	集中講義								高野 克宏	
専門	必修	物質プロセス工学	0005	学修単位	2	2								車田 研青, 木寿博	
専門	必修	特別研究 I	0017	学修単位	6	8	10							柴田 公彦, 齊藤 充弘	
専門	必修	インターンシップA	0018	学修単位	2	集中講義								鄭 耀陽, 植英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘	
専門	選択	インターンシップB	0019	学修単位	2	集中講義								鄭 耀陽, 植英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘	
専門	選択	インターンシップC	0020	学修単位	2	集中講義								鄭 耀陽, 植英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘	
専門関連	選択	数理計画論	0001	学修単位	2		2							齊藤 充弘	
専門関連	必修	産業財産権	0002	学修単位	2	2								小松 道男, 植英規	
専門関連	必修	産業技術論	0003	学修単位	2		2							鄭 耀陽, 植英規, 柴田 公彦, 原田 正光, 芥川 一則	
専門関連	選択	現代化学	0004	学修単位	2	2								酒巻 健司	
専門関連	選択	情報科学論	0010	学修単位	2		2							小泉 康一	
専門関連	必修	応用解析学	0011	学修単位	2	2								西浦 孝治	

専門 関連	選択	力学総論	0012	学修 単位	2	2							小田 洋 平, 端 克 野
専門 関連	必修	システムデザイン	0014	学修 単位	2	2	4						鄭 耀陽 小出 康 瑞, 鈴木 晴 植 英 規, 梅 史 澤 洋 齊 藤 史 充 弘 芥 川 一 若 林 史 晃 央 丹 野 淳 森 崇 理
専門 関連	必修	生産管理論	0015	学修 単位	2	2							杉山 武 史
専門 関連	選択	環境保全工学	0016	学修 単位	2	2							押手 茂 克, 原 正 田 光
専門 関連	選択	新事業開発	0021	学修 単位	2	2							大川口 信一 湯川 崇
一般	選択	現代英語Ⅲ	0023	学修 単位	2				2				本 田 崇 洋
一般	選択	グローバル研修	0027	学修 単位	1					集中講義			高野 克 宏
専門	選択 必修	現代分析化学	0021	学修 単位	2				2				押手 茂 克
専門	必修	材料科学	0026	学修 単位	2				2				松尾 忠 利
専門	必修	特別研究Ⅱ	0031	学修 単位	10				14		16		柴田 公 彦, 齊 藤 充 弘
専門	必修	インターンシップA	0032	学修 単位	2					集中講義			鄭 耀陽 植 英 規, 柴 公 彦 齊 藤 史 充 弘
専門	選択	インターンシップB	0033	学修 単位	2					集中講義			鄭 耀陽 植 英 規, 柴 公 彦 齊 藤 史 充 弘
専門	選択	インターンシップC	0034	学修 単位	2					集中講義			鄭 耀陽 植 英 規, 柴 公 彦 齊 藤 史 充 弘
専門	選択 必修	応用有機化学	0035	学修 単位	2				2				梅澤 洋 史, 森 崇 理
専門	選択 必修	構造物理化学	0036	学修 単位	2				2				内田 修 司, 加 健 藤
専門	必修	生体分子機能工学	0037	学修 単位	2						2		十 亀 陽 一 郎
専門	選択 必修	応用合成化学	0038	学修 単位	2				2				梅澤 洋 史
専門	必修	応用材料化学	0039	学修 単位	2				2				梅澤 洋 史, 森 崇 理
専門 関連	選択	電力流通工学	0022	学修 単位	2						2		橋本 慎 也

専門 関連	選択	都市経済学	0024	学修 単位	2	<input type="text"/>	2	芥川 一 則						
専門 関連	選択	応用メカトロニクス	0025	学修 単位	2	<input type="text"/>	2	鄭 耀陽 野田 幸矢						
専門 関連	必修	製品開発論	0028	学修 単位	2	<input type="text"/>	2	芳賀 宏 一郎 湯川 崇						
専門 関連	必修	産業安全工学総論	0029	学修 単位	2	<input type="text"/>	2	芥川 一 則,原 正光 大槻 正伸						
専門 関連	選択	システム論	0030	学修 単位	2	<input type="text"/>	2	大槻 正 伸,植 英規						
専門 関連	選択	科学技術史	0040	学修 単位	2	<input type="text"/>	2	笠井 哲						
専門 関連	選択	減災工学	0041	学修 単位	2	<input type="text"/>	2	緑川 猛 彦,原 正光 齊藤 充弘 菊地 卓郎 高荒 智子 高 三 義,三 浦 拓 也						

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	SDG s 探究
科目基礎情報					
科目番号	0006		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	SDGsを考える、高井亨・甲田紫乃、ナカニシヤ出版 / 工学系卒論の書き方、別府俊幸・渡辺賢治、コロナ社				
担当教員	笠井 哲				
到達目標					
<p>①講義を通して、SDGs(持続可能な開発目標)の基礎事項について十分に理解することができる。</p> <p>②各人の将来の職業(エンジニアやビジネスマン)との関連で、SDGsを理解し目標達成を目指すことができる。</p> <p>③グループディスカッションを通して、専門職業人に必要なSDGs達成に関する判断力を身につけることができる</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
基礎的能力	SDGsを取り巻く歴史と現在の状況について理解しており、自分の言葉で説明できる。	SDGsを取り巻く歴史と現在の状況について、理解している。	SDGsを取り巻く歴史と現在の状況について、理解していない。		
専門的能力	SDGs達成のための自然・技術・人間のあり方とSDGs達成のための経営について理解しており、自分の言葉で説明できる。	SDGs達成のための自然・技術・人間のあり方とSDGs達成のための経営について、理解している。	SDGs達成のための自然・技術・人間のあり方とSDGs達成のための経営について、理解していない。		
汎用的技能	グループディスカッションを通して、社会人として十分なコミュニケーションスキルを身につけることができる。	グループディスカッションを通して、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけることができる。	グループディスカッションを通して、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけることができていない。		
態度・志向性	グループディスカッションを通して、チームワーク力に加えて、社会人として十分な主体性や責任感を身につけることができる。	グループディスカッションを通して、チームワーク力に加えて、社会人として必要な主体性や責任感を身につけることができる。	グループディスカッションを通して、チームワーク力に加えて、社会人として必要な主体性や責任感を身につけることができていない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	将来、専門職業人として求められるSDGsの基礎事項を学び、各人の将来の職業との関連で、SDGsを理解し目標達成を目指すことができるように学ぶ。さらに、うわべだけ熱心に見せる「SDGsウォッシュ」に陥らぬよう、自分の問題として取り組むためグループディスカッションを行い、自分の意見を発表する。				
授業の進め方・方法	まず、SDGsの形成過程からその存在理由を理解し、SDGsを取り巻く歴史と現在の状況について学習する。次に、SDGs達成のための自然・技術・人間のあり方とSDGs達成のための経営について、各自の専門分野に沿って学習する。さらに、グループディスカッションでは、チームワーク力、コミュニケーションスキル、主体性、責任感を磨くとともに、背景(出身学科)の異なる人たちとも対話ができるようにする。定期試験(期末のみ)を実施し、グループディスカッションやレポートと総合的に評価し、60点以上を合格とする。ただし、再試験の受験は定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。この科目は学修単位科目のため、授業の前に配付された課題プリントを調べ、授業の後に授業内容をまとめて提出する。				
注意点	グループディスカッションは、いわばロールプレイであるが、実際に自分自身の問題であると考え、積極的に参加すること。課題は日本だけでなく、海外のものも検討する。その際、英文を読解するので、英和辞典を用意すること。定期試験の成績を60%、グループディスカッションへの参加状況を20%、自学自習課題の達成状況を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。プレゼンテーションは単位認定の要件とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	SDGsとは何か	SDG s の存在理由を理解する。	
		2週	歴史から見た経済と環境開発	エネルギーと工業化を考える。	
		3週	SDGsの来た道	MDGsとSDGs の目標を比較する。	
		4週	世界は持続可能か	統合指標という枠組みを理解する。	
		5週	SDGs達成のための自然・技術・人間	技術者として何ができるかを考える。	
		6週	持続可能な自然と物理法則	機械万能の世界観の功罪を考える。	
		7週	持続可能なエネルギー供給	バイオマスと水素エネルギーを理解する。	
	2ndQ	8週	持続可能な土壌資源	土壌資源の管理を考える。	
		9週	変動帯としての日本	日本人の生き方を考える。	
		10週	活動に於ける関係性	パートナーシップのあり方を理解する。	
		11週	SDGs達成のための経営	消費者と企業が共に歩む社会を考える。	
		12週	SDGsとマーケティング	CSR(企業の社会的責任)とCSV(共通価値創造)を理解する。	
		13週	グローバル市場における消費と生産	SPA(製造小売業)の登場とグローバル化を理解する。	
14週	SDGsウォッシュとは何か	ストーリー戦略を考える。			

		15週	まとめ—SDGsを考える—	歴史・環境・経営の観点から考える。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	課題レポート	グループディスカッション	合計	
総合評価割合	60	20	20	100	
基礎的能力	30	10	0	40	
専門的能力	30	10	0	40	
汎用的技能	0	0	10	10	
態度・志向性	0	0	10	10	

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	現代英語 I
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	ENGLISH TEMPLATE WRITING (金星堂)				
担当教員	本田 崇洋, 大須賀 心綾				
到達目標					
社会的な話題や自分の専門分野について、伝えたい情報や自分の考えなどを、目的や状況に応じて資料を効果的に活用したり、論理の構成や展開を工夫したりしながら、複数の段落から成る文章で書いて伝えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	情報や考えなどを、複数の段落から成る文章で効果的に伝えることができる。		情報や考えなどを、複数の段落から成る文章で伝えることができる。		情報や考えなどを、複数の段落から成る文章で伝えることができない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>本科目では、複数の段落から成る文章で情報や考えを書いて伝えることができる力の育成を目的として、以下の①～③のような活動に取り組む。</p> <p>①英語母語話者と日本語母語話者が書いた英文の比較・分析を通して、日本語とは異なる英語特有の情報展開パターンへの理解を深める活動</p> <p>②「提案文」「報告文」「謝罪文」などを、目的や状況に応じて内容や表現を工夫しながら、英語らしい情報展開を用いて書く活動</p> <p>③書いたものを学生間で相互評価することを通して、自分の文章のよい点や改善すべき点を理解した上で、文書をリライトする活動</p> <p>④上記①～③の活動を通して身に付けた知識やスキルを用いて、社会的な話題や自分の専門分野に関する情報や考えなどを、複数の段落から成る文章で書いて伝える活動</p>				
授業の進め方・方法	<p>教科書を用いた講義・演習と、学生同士での対話及び相互評価を組み合わせる授業を進めていく。</p> <p>授業内で複数の段落から成るエッセイの作成を行う。これらは授業内課題として複数回提出を求め、評価の対象とする。</p> <p>期末試験 (90分) を実施する。期末試験 (50%) と課題エッセイ (50%) を総合的に評価し、60点以上を合格とする。</p>				
注意点	<p>授業には和英辞典 (またはそのコンテンツを有するデバイス) を持参すること。</p> <p>授業内で実施して提出を求めている課題が多いので、欠席が多くならないよう注意すること。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Chapter 1 Self-Introduction		英語による「自己紹介文」で求められる英語らしい情報展開パターンと語彙等を理解し、活用できる。
		2週	Chapter 1 Self-Introduction		テンプレートを基に、自己紹介文を複数の段落から成る文章で書くことができる。
		3週	Chapter 2 Apologies		英語による「謝罪文」で求められる英語らしい情報展開パターンと語彙等を理解し、活用できる。
		4週	Chapter 2 Apologies		テンプレートを基に、謝罪文を複数の段落から成る文章で書くことができる。
		5週	Chapter 3 Reports		英語による「報告文」で求められる英語らしい情報展開パターンと語彙等を理解し、活用できる。
		6週	Chapter 3 Reports		テンプレートを基に、報告文を複数の段落から成る文章で書くことができる。
		7週	Chapter 4 Requests		英語による「依頼文」で求められる英語らしい情報展開パターンと語彙等を理解し、活用できる。
		8週	Chapter 4 Requests		テンプレートを基に、依頼文を複数の段落から成る文章で書くことができる。
	2ndQ	9週	Chapter 5 Declining / Refusals		英語による「断り文」で求められる英語らしい情報展開パターンと語彙等を理解し、活用できる。
		10週	Chapter 5 Declining / Refusals		テンプレートを基に、断り文を複数の段落から成る文章で書くことができる。
		11週	Chapter 6 Proposals		英語による「提案文」で求められる英語らしい情報展開パターンと語彙等を理解し、活用できる。
		12週	Chapter 6 Proposals		テンプレートを基に、提案文を複数の段落から成る文章で書くことができる。
		13週	Chapter 7 Recommendations / Personal Statements		英語による「自己推薦文」で求められる英語らしい情報展開パターンと語彙等を理解し、活用できる。
		14週	Chapter 7 Recommendations / Personal Statements		テンプレートを基に、自分の専門分野と関連させた自己推薦文を複数の段落から成る文章で書くことができる。
		15週	期末試験		

		16週	期末試験の返却及びフィードバック	これまでに学んだことを振り返り、成果と課題を言語化できる。
--	--	-----	------------------	-------------------------------

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8
		英語運用能力向上のための学習	英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	4	前9,前10,前11,前12
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	4	前9,前10,前11,前12
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	4	前9,前10,前11,前12
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	4	前13,前14,前16
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	4	前13,前14,前16
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	4	前9,前10,前11,前12

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	口頭発表	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	現代英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	English Template Writing (金星堂)				
担当教員	小倉 恵実				
到達目標					
現代英語Ⅰでカバーできなかった部分を終え、英語で書かれた論文や洋書の読み方について、より深い読解ができる英語能力を身に着ける。国際社会で活躍する技術者となるために、英語による意思表示ができ、また興味のあるトピックについて掘り下げて調べ、英語による情報交換・発信ができるようになる。現代英語Ⅱを通して、英作文に特化した教科書を使い、実践的な英語力を高める。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	教科書の内容を十分理解し、場面に応じた形式の英文の書き方を明瞭に出来ている。		教科書の内容は理解しているが、英文の書き方において、手書きとパソコンでの作成に違いがある。		教科書の内容を理解が乏しく、その場面に合った英文が作成できない。
評価項目2	洋書や英語論文の形式を理解し、自分でも自身が今まで研究してきた内容を英語でまとめられる。		洋書や英語論文の形式は理解しているが、自分の研究内容については、語彙数が減ってしまう。		洋書や英語論文の形式についての理解ができていない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この授業では、テキストを元に、英作文の書き方や、洋書や英語文献の読み方などについて説明を受けることによって、学生が英語で書かれた書籍や論文の形式に慣れ、英語での情報収集ができることを目標とする。また、英作文を通して、現実社会の問題発見解決ができる視野と視座を身に着けると同時に、英語による情報発信能力や情報収集能力を養う。				
授業の進め方・方法	教科書の輪読と問題回答をベースに進める。基本的には現代英語Ⅰで習得できなかった単元から開始するため、下記の授業計画とは前後することがある事を承知していること。教科書の中のタスクについて、特に力をいれる。また、英語での作文の仕方や形式について、実践を通して学ぶ。定期試験は90分の試験を実施する(50分経過以降は退席可)。定期試験の成績を70%、平素の成績(英作文課題)を30%として、総合的に評価し、60点以上を合格とする。				
注意点	教科書の問題だけにしぼられない、英作文でのテーマを考え、授業中に指示する形式で英文メールや英語論文が理解出来るようになること。検索の為に電子辞書、スマホ、パソコンの類は授業中は持ち込み可能とする(定期試験時は不可)。課題はすべて英作文とするが、定期試験でも英作文を1大問文の点数(20~30点程度)として換算させるので、英語の作文が不安な学生は授業中及び授業後に積極的に添削の依頼を教員にすること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Orientation Chapter 8 Opinions 意見表明	英作文の形式について、プリントやデータを配布するので、それを理解すること。	
		2週	Chapter 8 Opinions English writing	英文における「意見表明」の仕方、日本語とどの点が違うのかを把握する。	
		3週	Chapter 9 Asking for Advice 相談	本文の読解とテキスト内の問題の解答ができるようになる。	
		4週	Chapter 9 Asking for Advice English speaking & writing	特に企業に送る英文電子メールの書き方などをマスターする。	
		5週	Chapter 10 Narrating Past Events 過去の出来事を語る	本文の読解とテキスト内の問題の解答ができるようになる。	
		6週	Chapter 10 Narrating Past Events English writing	自分の体験などを英文で分かり易く英文で説明できるようにする。	
		7週	Chapter 11 Gratitude 感謝	本文の読解とテキスト内の問題の解答ができるようになる。	
		8週	Chapter 11 Gratitude 感謝	英文での「お礼状」の書き方を覚え、作成できるようになる。	
	4thQ	9週	Chapter 12 Cover Letters 送付状	本文の読解とテキスト内の問題の解答ができるようになる。	
		10週	Chapter 12 Cover Letters 送付状	パソコンで英文の送付状の作成の仕方や、差出人、受取人の位置などが作れるようになる。	
		11週	Chapter 13 Abstracts 論文の要旨	本文の読解とテキスト内の問題の解答ができるようになる。	
		12週	Chapter 13 Abstracts 論文の要旨	本文が日本語であっても、英文でのAbstractsのまとめ方を覚え、キーワードなどを導出して3-4行の英文にまとめることができるようになる。	
		13週	Chapter 14 Acknowledgments 謝辞	本文の読解とテキスト内の問題の解答ができるようになる。	
		14週	Chapter 14 Acknowledgments 謝辞	実際の洋書を使って「謝辞」の書き方や、その意義のついての経緯を理解できるようになる。	
		15週	期末テスト		

		16週	English Writing	期末テストの返却と、期末テストで課題となった英作文の見直しを行う。
--	--	-----	-----------------	-----------------------------------

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後16
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後16
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	後1,後8	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	後2,後9	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	後3,後10	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	後4,後11,後16	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	4	後5,後12	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	後6,後13	
		英語運用能力向上のための学習	実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	後7,後14	
			自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	後1,後10	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	後2,後11	
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	4	後3,後12	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	4	後4,後13	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	4	後5,後14,後15	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	4	後6	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	後7,後16	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	4	後8	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	4	後9	

評価割合							
	期末試験	課題発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	予習・授業貢献度	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	日本文化論
科目基礎情報					
科目番号	0009		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材					
担当教員	渡部 裕太				
到達目標					
① 日本近代文学のうち、とくに小説について、その成立と変化とを理解する。 ② 日本近代文学における基礎的な知識を習得する。 ③ 近代日本の言語文化がいかように発展したのかを説明できるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
近代日本小説史	大まかな小説史について説明できる。		大まかな小説史について理解できる。		小説史が理解できない。
言語文化	言文一致以降の言語文化の発展が説明できる。		言語文化の発展がおおよそ理解できる。		言語文化の発展が理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	明治以降の言語芸術・小説について、実際に作品に触れながら、その変容の諸相を考える。小説のほかに、同時代の評論・思想潮流などにも目を配り、小説の変化・文体の変遷が何を原因に生じ、何を旨としたものだったのかを大づかみに理解することをめざす。				
授業の進め方・方法	期末試験は100分の試験を実施する。定期試験の成績80%、課題等20%で評価し、60点以上を合格とする。				
注意点	課題・復習として作品を読んでくれることが求められる。古い文献を読み慣れない場合は、ある程度時間がかかることを履修時に意識しておくこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス	授業の進め方・必要な心構えが理解できる。	
		2週	戯作から小説へ	明治最初期の文学の興りを理解できる。	
		3週	文体の模索	言文一致運動について理解することができる。	
		4週	自然主義文学	自然主義について理解することができる。	
		5週	耽美派と白樺派	自然主義とは異なる立場を理解できる。	
		6週	大正教養主義と文壇	大正教養主義について知り、同時代の文学者の活動が理解できる。	
		7週	プロレタリアの時代	マルクス主義運動と政治的な文学の発生が理解できる。	
		8週	新感覚派とダダ	プロレタリア文学以外の同時代の潮流が理解できる。	
	2ndQ	9週	戦争と文学	戦時下の検閲と文学活動の制限を理解することができる。	
		10週	戦後文学の諸相 1	戦後の出版活動とGHQの検閲について理解できる。	
		11週	戦後文学の諸相 2	戦後の新しい文学潮流について理解することができる。	
		12週	高度経済成長期の文学	高度経済成長期の社会状況と文学の変化が理解できる。	
		13週	現代の文学へ	現代の文学の特徴について考えることができる。	
		14週	授業内容の復習	全体を振り返り、近代文学の流れを自分なりに説明することができる。	
		15週	試験の返却と解説	認識の誤りや理解の足りない部分について、補うことができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
授業内容の把握		60	10	70	
文章表現力		20	10	30	

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	グローバル研修
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	高野 克宏				
到達目標					
1. グローバルに関する課題、作業に関して積極的に、自発的に取り組むことができる。 2. 課題解決に必要なコミュニケーション能力を用いて、自らの意見を説明することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	グローバルに関する課題、作業、研修に規定時間以上取り組み、成果をあげる。		グローバルに関する課題、作業、研修に規定時間以上取り組みむ。		グローバルに関する課題、作業、研修に規定時間以上取り組みむことができない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	グローバルに関する研修に参加し、研修をととして、国際的に活躍できる能力を持つ実践的技術者、ビジネスパーソンを育成する。				
授業の進め方・方法	研修期間は休業中の本科30時間以上・専攻科45時間以上であることを原則とする。ただし、国際学会及び国際フォーラム・フェアにおけるにおける外国語での発表、その他国際化・SDGs推進センター長が事前に承認した場合には、授業期間中における活動を認め、事前の発表準備及び学習の時間も活動時間の一部とみなすことができる。				
注意点	提出された活動記録書の活動内容及び時間数、並びに報告書の内容を国際化・SDGs推進センター及び教務委員会で総合的に審査し、グローバル活動の総括時間が30時間以上の場合に合格とし、グローバル研修の単位として認定する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
				<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	以下のいずれかの研修を授業項目として認める 1. JSTS, ISTS 2. 国際学会及び国際フォーラム・フェアなどによる外国語による研究発表 3. 語学研修 4. 文化体験型海外研修 5. 国際ボランティア活動 6. 海外におけるインターンシップ 7. その他、国際化・SDGs推進センター長が認めたもの		
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
後期	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	物質プロセス工学	
科目基礎情報							
科目番号	0005		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	適宜資料配布						
担当教員	車田 研一, 青木 寿博						
到達目標							
① 重化学工業の主要・代表的な工程における加工原理を物理化学および工業単位操作の応用問題として講ずる。 ② 物質変換のための基本プロセスおよびその複合プロセスの設計計算を行う。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	重化学工業の主要・代表的な工程における加工原理を物理化学および工業単位操作の応用問題として紹介し、主要文献の読解能力や計算モデルの使用能力を涵養する。						
授業の進め方・方法	期末試験として90分の試験を実施する。期末試験の成績を70%、小テスト・課題の総点を30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。授業は通常の講義形式で実施する。授業中に基礎事項や例題解法を解説し、必要に応じて関連課題の頒布や小テストを実施する。						
注意点	高等専門学校準学士課程で履修する物理化学および化学工学分野の必修科目の内容を習得しておくこと。自学自習の確認方法：必要に応じて定期的に課題等を頒布し、理解確認のため回収・採点をおこなう。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	製品の形態と工程の特徴(1)	粉体ハンドリングの諸側面の理解			
		2週	製品の形態と工程の特徴(2)	核発生と成長の理論と計算			
		3週	製品の形態と工程の特徴(3)	機械材料、金属加工の理論と実例			
		4週	工程の原理を理解するための理論(1)	統計的バラツキを含んだ系の扱いの理論			
		5週	工程の原理を理解するための理論(2)	熱的揺らぎの影響をうける系の理論			
		6週	工程の原理を理解するための理論(3)	相図の見方、相律の応用、相と構造、転位の理論			
		7週	熱プロセス概論	熱移動/物質移動複合プロセス事例と理論			
	2ndQ	8週	物質変換のための基本プロセス(1)	伝熱および物質輸送プロセスの設計計算			
		9週	物質変換のための基本プロセス(2)	分離および混合プロセスの設計計算			
		10週	物質変換のための基本プロセス(3)	反応プロセスの設計計算			
		11週	基本プロセスの型式(1)	回分操作と連続操作および多段化			
		12週	基本プロセスの型式(2)	並流式および向流式操作			
		13週	複合プロセス(1)	基本プロセスの複合化			
		14週	複合プロセス(2)	物質変換プロセスと社会・環境			
		15週	まとめ	まとめ			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	特別研究 I	
科目基礎情報						
科目番号	0017		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 6		
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1		
開設期	通年		週時間数	前期:8 後期:10		
教科書/教材	各テーマについて指導教員より指示がある。					
担当教員	柴田 公彦, 齊藤 充弘					
到達目標						
①新たな課題に取り組み問題解決に向けて自主的に計画を立案することができる。 ②継続して研究を実行できる能力を身につける。 ③ディスカッション等を通して研究結果を理論的に考え論文にまとめることができる。 ④中間発表会や学会等で理論的に一貫性のあるプレゼンテーションができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を実践で理解している。	到達目標の内容を実践で理解していない。		
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	担当教員の指導のもと、文献調査、理論解析および実験、ディスカッション等の実践を通して、創造的研究開発能力およびデザイン能力を育成する。					
授業の進め方・方法	<p>内 容 【クラス分け方式】</p> <p>第1回～5回 ガイダンスとクラス振り分け。テーマの決定、関連する文献調査・参考資料作成</p> <p>第6回～20回 実験、調査、データの整理と分析</p> <p>第21回～30回 結果のとりまとめと研究論文の作成、発表会の開催</p> <p><テーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・粉粒体の製造にかかわるプロセッシングとハンドリング時の力学的現象の研究 (車田研一教授) ・種々のアモルファスガラス素材の製造にかかわるプロセッシングとその熱的誘導体の構造と応用に関する研究 (車田研一教授) ・機能性コロイドの作製とその界面制御に関する研究 (車田研一教授) ・動物における新規生体分子の分布,代謝および機能に関する研究 (柴田公彦准教授) ・新規有機2次元非線形光学材料の合成と評価に関する研究 (梅澤洋史教授) ・生物の環境ストレス耐性因子(細胞構造)の同定・機能解析・応用に関する研究(十亀陽一郎助教) ・新規ナノ薬剤の合成と評価に関する研究 (梅澤洋史教授) ・環境中の微量有害・有用物質の新しい分離・濃縮法の開発と環境試料の計測・回収法への応用に関する研究 (押手茂克准教授) ・環境保全および社会的有用物質創成のための新規有機合成反応の開発 (森崇理准教授) ・多置換芳香族化合物を用いた機能性化合物の精密合成に関する研究 (三上進一助教) ・環境保全を目指した高効率分離・回収及び高感度計測方法の開発 (加藤健准教授) ・循環型社会構築のための触媒的有機合成反応の開拓 (森崇理准教授) 					
注意点	研究能力の育成と向上のために、積極的かつ自主的な取り組みが求められる。定期的にレポートの提出を課する。さらに原則として学会等での発表を義務づける。研究遂行を50%, 報告書の内容を30%, プレゼンテーションを20%として評価し, 60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				

		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	取組状況	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	インターンシップA	
科目基礎情報						
科目番号	0018		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	なし					
担当教員	鄭 耀陽, 植 英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘					
到達目標						
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を実践で理解している。	到達目標の内容を実践で理解していない。			
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成するとともに、実習報告会を通じてプレゼンテーション能力を高める。インターンシップAは必修であり、2週間(実質10日-80時間)の実習、10時間のまとめ(報告書作成、報告会資料作成、報告会プレゼンテーション)で2単位とする。コース長が、事前指導、事後の報告書作成指導、報告会の発表指導を行う。 この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。					
授業の進め方・方法	【クラス分け方式】 ①事前ガイダンス、履歴書・必要提出書類等の作成指導 ②実習 ③実施報告書の作成、実施報告会の開催 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、上記①、③を実施する。					
注意点	社会人としての基本的なマナー(言葉づかい、挨拶、礼儀作法等)に十分な注意を払うこと。 実習先からの実習記録票、実習報告書および実習報告会における発表等の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	インターンシップB
科目基礎情報					
科目番号	0019		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	なし				
担当教員	鄭 耀陽, 植 英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘				
到達目標					
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	到達目標の内容を实践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を实践で理解している。	到達目標の内容を实践で理解していない。		
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成する。必修のインターンシップAの他に2週間の実習及びまとめを行い2単位とする。この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。				
授業の進め方・方法	【クラス分け方式】 ①事前ガイダンス、履歴書・必要提出書類等の作成指導 ②実習 ③実施報告書の作成 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、上記①、③を実施する。				
注意点	社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。実習先からの実習記録票、実習報告書の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			

		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	インターンシップC	
科目基礎情報						
科目番号	0020		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)	対象学年	専1			
開設期	集中	週時間数				
教科書/教材	なし					
担当教員	鄭 耀陽, 植 英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘					
到達目標						
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	到達目標の内容を实践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を实践で理解している。	到達目標の内容を实践で理解していない。			
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成する。インターンシップA, Bの他に2週間の実習及びまとめを行い2単位とする。 この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。					
授業の進め方・方法	【クラス分け方式】 ①事前ガイダンス、履歴書・必要提出書類等の作成指導 ②実習 ③実施報告書の作成 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、上記①、③を実施する。					
注意点	社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。 実習先からの実習記録票、実習報告書の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				

		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	数理計画論			
科目基礎情報								
科目番号	0001		科目区分	専門関連 / 選択				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	プリント, 板書による。							
担当教員	齊藤 充弘							
到達目標								
①多変量解析について理解する。 ②日常生活のさまざまなケースにおいて、習得した手法を適切に選択し、かつ誤ることなく扱うことができるようになる。 ③毎回の授業を通して広い視野と柔軟性を身につける。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
確率・統計手法とデータ解析	確率・統計手法を理解し、データ解析に応用できる。		確率・統計手法を理解している。		確率や統計という用語を知っている。			
多変量解析の実践	多変量解析の手法を選択し、分析等に応用できる。		多変量解析とその内容を理解し、説明することができる。		多変量解析という用語を知っている。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	土木計画をはじめ社会の計画において用いられる数理解析手法について、その理論や特徴について学習するとともに、例題を通して現実問題に対して適用すべき手法を選択し、解析結果を解釈・評価することのできる能力を育成する。							
授業の進め方・方法	定期試験の成績を70%、キャッチボールシートへの記入状況やレポート、課題の総点を30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後の学習として、練習問題やキャッチボールシートへの取り組みと提出を通して学習内容および理解度を確認する。							
注意点	毎日の新聞、ニュースをはじめ、絶えず問題意識をもちながら身の回りの事象に注目していること。また、毎回キャッチボールシートに授業のポイントを整理し、質問や授業の感想等を記入してもらう。 自学自習の確認方法-毎回実施するキャッチボールシートのほかに課題プリントを配布し、それを定期的に提出させる							
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	オリエンテーション			計画とは何か、数理計画を学ぶ意義、基本事項		
		2週	確率・統計手法(1)			統計的モデルの意味、統計データの整理、確率分布、確率密度関数		
		3週	確率・統計手法(2)			統計的推定、点推定		
		4週	確率・統計手法(3)			仮説検定		
		5週	回帰分析とデータ解析(1)			多変量データ、相関分析と相関係数		
		6週	回帰分析とデータ解析(2)			回帰分析、回帰係数、最小2乗法、検定		
		7週	多変量解析			データの種類と形態、多変量解析の種類		
	4thQ	8週	多変量解析(1)重回帰分析			重回帰式、偏回帰係数		
		9週	多変量解析(1)重回帰分析			決定係数、変数選択の方法		
		10週	多変量解析(2)判別分析			判別関数式、判別得点		
		11週	多変量解析(2)判別分析			変数選択の方法、判定		
		12週	多変量解析(3)主成分分析			主成分得点の算出、固有値		
		13週	多変量解析(3)主成分分析			主成分の数、主成分の解釈、寄与率		
		14週	多変量解析(4)因子分析			主成分分析との違い、因子負荷量の求め方、寄与率、因子の数、因子得点、因子軸の解釈		
		15週	数理計画の展開と応用			確認問題、応用問題、演習問題		
16週								
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	産業財産権	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分	専門関連 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	知っておきたい特許法 22訂版, 工業所有権法研究グループ, 朝陽会						
担当教員	小松 道男, 植 英規						
到達目標							
①特許制度、実用新案制度、意匠制度の活用方法を正確に理解できる。 ②商標制度、不正競争防止法、著作権法、条約の活用方法を正確に理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技術者及び研究者として活用できる知的所有権制の知識を得るため、実務的な内容を解説する。この科目は、知的財産権の実務経験を有する技術士が、その経験を活かして講義を行う。						
授業の進め方・方法	定期試験の成績を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	期末試験は100分の試験を実施する。 授業における講義内容を重視すること。 自学自習の確認方法: 学生に要所で課題を与え提出させる。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	知的所有権制度の存在意義		産業財産権制度の存在意義の認識		
		2週	特許制度の活用		特許制度を活用した企業戦略、発明者の戦略		
		3週	特許出願の手続き		特許出願の詳細な手続き		
		4週	出願審査請求と審査結果への対応		出願後の中間手続き		
		5週	特許権の活用とライセンス		特許権の権利行使、実施権許諾、契約		
		6週	無効審判制度、権利侵害訴訟		無効審判、権利侵害訴訟の手続きと効果		
		7週	裁判の判例		既判例の解説、法律との関係		
		8週	実用新案登録出願の手続き、権利活用		実用新案登録出願の手続き、権利行使、実施許諾		
	2ndQ	9週	意匠登録出願の手続き、権利活用		意匠登録出願の手続き、権利行使、実施許諾		
		10週	商標登録出願の手続き、権利活用		商標登録出願の手続き、権利行使、使用許諾		
		11週	不正競争防止法の活用		不正競争の類型、営業秘密、法制度		
		12週	著作権制度の活用		著作権、権利行使と使用許諾、法制度		
		13週	知的財産権に基づく経済活動戦略		権利の活用戦略		
		14週	知的財産権をめぐる国際条約		国際条約の最新動向の理解		
		15週	学習したことの総括		前期期末試験解答用紙の返却と解説		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	小テスト・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	産業技術論	
科目基礎情報							
科目番号	0003		科目区分	専門関連 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	プリント等配布資料						
担当教員	鄭 耀陽, 植 英規, 柴田 公彦, 原田 正光, 芥川 一則						
到達目標							
カーボンニュートラルに関する各産業分野での状況、技術動向を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
各種産業の最近の状況、先端技術の理解	各種産業の状況、技術動向を理解し応用について考えることができる。		各種産業の状況、技術動向が理解できる		各種産業の状況、技術動向が理解できない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本授業は、地域カーボンニュートラルを牽引する人材育成を目指して福島高専と地域企業等との連携により開設する「カーボンニュートラル社会連携講座」の一環として実施するものである。各産業から実務者を招いた講義によってカーボンニュートラルに関する技術動向や政策等について学ぶことに加え、公開セミナーやワークショップ等により理解を深める。						
授業の進め方・方法	各分野の講義終了後レポートを提出させ、提出されたレポートの成績により総合的に評価し、60点以上を合格とする。この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、課題を実施する。						
注意点	各産業分野の中でのカーボンニュートラルの位置づけとその重要性、他産業との関連性をよく理解し、全体的な把握ができるように心がける。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (1)		カーボンニュートラルの概要		
		2週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (2)		エネルギー政策 省エネルギー・新エネルギー戦略		
		3週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (3)		各種発電に関する技術動向		
		4週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (4)		各種発電に関する技術動向		
		5週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (5)		各種発電に関する技術動向		
		6週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (6)		蓄電池に関する技術動向		
		7週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (7)		蓄電池に関する技術動向		
		8週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (8)		スマートエネルギーに関する技術動向		
	4thQ	9週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (9)		カーボンニュートラルと新ビジネス		
		10週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (10)		地域政策		
		11週	実務者によるカーボンニュートラル講座 (11)		ワークショップ		
		12週	公開セミナー (1)		地球環境とカーボンニュートラル		
		13週	公開セミナー (2)		カーボンニュートラルに関する各国の動向		
		14週	公開セミナー (3)		カーボンニュートラルとモノづくり技術		
		15週	総まとめ				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	現代化学		
科目基礎情報							
科目番号	0004	科目区分	専門関連 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)	対象学年	専1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	大人のための科学 高校で教わらなかった化学, 渡辺 正・北條博彦, 日本評論社						
担当教員	酒巻 健司						
到達目標							
①原子の電子構造や結合のミクロ世界を説明できる。 ②反応の方向や平衡を, 標準生成ギブスエネルギーや酸化還元電位から説明できる。 ③光エネルギーを説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	化学は, 未開の地も多い物質世界に分け入って創造を目指す学問ですが, その手前で想像の力を要求します。それは, 目に見えない電子や光子, 原子や分子の振る舞いを思い浮かべる力です。本講義では, 原子どうしがなぜつながりあうのか, 化学反応はなぜその向きに進むのかを, 簡単な量子論と結合論のミクロな世界や, 熱力学・平衡論や速度論のマクロな世界から概説します。						
授業の進め方・方法	定期試験成績を100%として, 100点法の60点以上を合格とする。この科目は学修単位科目のため, 事前, 事後の学習として, 演習プリントの配布を実施する。						
注意点	化学は暮らしにいちばん縁の深い科目です。各自の専門分野と化学との関わりが非常に多いことに気がつくと思います。化学的知識の獲得は, 創造的な仕事に大いに役立つとともに, 境界領域や新分野の萌芽に生かされます。授業計画日程等に変更を要した際は, 早めにその連絡に努めます。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	序論 見えない世界	持続的発展可能な社会, 物質科学の原点			
		2週	安定な元素はいくつ?	量子化学的にみた粒子とは,			
		3週	周期表とはなんだろう?	量子化学的にみた原子, 分子, 化学結合			
		4週	原子はなぜつながり合う?	量子化学的にみた電子やイオン			
		5週	イオンとはなに?	量子化学的にみた物質の構造			
		6週	水分子はなぜ「く」の字に曲がる	量子化学的にみた光学的性質, 光と物質			
		7週	モルとは何か?	量子化学的にみた物質の電気的・磁気的性質			
		8週	熱と温度はどうちがう?	ボルツマン定数, エネルギーの等分配則			
	2ndQ	9週	化学反応の向き	標準生成ギブスエネルギー, 標準酸化還元電位			
		10週	化学反応はどのように進む	反応の方向, 進み方, 終わりは?			
		11週	エネルギーと物質 (1)	エネルギーの形態と変換			
		12週	エネルギーと物質 (2)	水の電気分解, 水の光分解, 燃料電池			
		13週	フェノールフタレインの色は?	光子, 光のエネルギー, 人工光合成			
		14週	環境と技術	グリーンケミストリー, 見果てぬ夢-室温超伝導体			
		15週	期末試験の解説, 総括	解答例配布とその解説, 達成度の記載			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	情報科学論
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	専門関連 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	データ配布				
担当教員	小泉 康一				
到達目標					
①情報量、エントロピーの意味が理解し、簡単な確率システムのエントロピーが計算できる。②グラフ理論を通してアルゴリズムの概念を理解する。③コンピュータネットワークの基礎について理解する。④情報セキュリティのための暗号システムの基礎概念を理解する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
情報量、エントロピーの意味が理解し、簡単な確率システムのエントロピーが計算できる。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。		
グラフ理論を通してアルゴリズムの概念を理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。		
コンピュータネットワークの基礎について理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。		
情報セキュリティのための暗号システムの基礎概念を理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	広く一般のエンジニア、研究者等として知っておくべき情報理論、数学的な情報の解析法の基礎について解説する。情報通信理論の話題についても取り上げる。				
授業の進め方・方法	期末試験を実施する。単位追認試験は、小テストをすべて受験し授業内に明示する規定点数に達した者のうち、試験日までに実施する数回の指導をすべて受けた者のみ受験できる。この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習の確認として、定期的に小テストを実施する。				
注意点	<p>数学的な内容を多く含むので、復習をして、各事項を一つ一つ確実に理解していくことが重要である。</p> <p>自学自習の確認方法：定期的に小テストを行う。</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報理論入門, アブラムソン (宮川洋訳), 好学社. ・インターネット工学, 後藤滋樹, 外山勝保, コロナ社. ・工学のための離散数学, 黒澤馨, 数理工学社. 				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	情報量とエントロピー-1	対数と確率論の基礎, それらの計算法の復習 完全情報系、情報量の定義	
		2週	情報量とエントロピー-2	情報源とエントロピー	
		3週	情報数学1 (情報量とエントロピーの小テスト)	グラフとは何か オイラー閉路	
		4週	情報数学2	ハミルトン閉路, 木	
		5週	情報数学3	全域木, 根つき木 最短路, DIJKSTRAアルゴリズム1	
		6週	情報数学4 コンピュータネットワーク1	DIJKSTRAアルゴリズム2 OSI参照モデルとプロトコル	
		7週	コンピュータネットワーク2 (グラフ理論の小テスト)	LANにおける通信	
		8週	コンピュータネットワーク3	ルータと経路制御	
	4thQ	9週	コンピュータネットワーク4	インターネットの応用 TCP/IPの概要	
		10週	暗号理論 (コンピュータネットワークの小テスト)	秘密鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違い シフト暗号の暗号化、復号化	
		11週	整数論 1	剰余環 Z_n について mod演算, ユークリッド互除法とその演習	
		12週	整数論 2 公開鍵暗号 1	拡張ユークリッド互除法を使った逆数導出法 RSA暗号系	
		13週	公開鍵暗号 2 量子暗号 (量子鍵配送) 1	RSA暗号系とその演習 量子鍵配送BB84プロトコルの理論について	
		14週	量子暗号 (量子鍵配送) 2	敵がいる場合の量子鍵配送について	
		15週	まとめ (暗号理論の小テスト)	授業内容のまとめ	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用解析学		
科目基礎情報							
科目番号	0011		科目区分	専門関連 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	新 応用数学 高遠 節夫 他5名著 大日本図書, 新 応用数学問題集 高遠 節夫 他5名著 大日本図書						
担当教員	西浦 孝治						
到達目標							
複素関数の性質を理解し, その微分と積分の計算ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	複素関数について学習する。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目であり, 事前、事後の学習はレポート課題とする。						
注意点	期末試験の成績を70%, レポート課題を30%として総合的に評価し, 60点以上を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	正則関数	複素数と極形式			
		2週	正則関数	絶対値と偏角			
		3週	正則関数	複素関数			
		4週	正則関数	正則関数			
		5週	正則関数	コーシー・リーマンの関係式			
		6週	正則関数	逆関数			
		7週	積分	複素積分			
		8週	積分	コーシーの積分定理 (1)			
	2ndQ	9週	積分	コーシーの積分定理 (2)			
		10週	積分	コーシーの積分表示			
		11週	積分	数列と級数			
		12週	積分	関数の展開			
		13週	積分	孤立特異点と留数			
		14週	積分	留数定理			
		15週	積分	問題演習			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	力学総論
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	専門関連 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「演習で学ぶ量子力学」小野寺嘉孝 著 裳華房				
担当教員	小田 洋平, 端野 克哉				
到達目標					
① 力学の古典論と量子論について理解する。 ② 数学を道具として物理学の基本方程式の解き方を習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	解析力学および量子力学の初歩を学ぶ。				
授業の進め方・方法	授業の内容について講義した後、課題演習を行う。 この科目は学修単位科目のため、事後の学習としてレポート課題を課す。 期末試験では90分間の試験を実施する。 総合成績は、期末試験70%、レポート課題30%で評価し、60点以上を合格とする。				
注意点	レポート課題は提出期限を守ること。 本科で学んだ数学と物理を十分に復習してから授業に臨むこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ニュートンの運動方程式	速度, 加速度	
		2週	ニュートンの運動方程式	単振動の運動方程式	
		3週	ポテンシャルとエネルギー保存則	ポテンシャル, 力学的エネルギー保存則	
		4週	座標の変換	極座標, 基準座標	
		5週	ラグランジュ方程式の導入	ラグランジアン, ラグランジュ方程式	
		6週	ラグランジュ方程式の応用	単振り子, 連成振動	
		7週	最小作用の原理	ハミルトンの最小作用の原理	
		8週	前期量子論	古典力学の破綻, 物質波	
	2ndQ	9週	不確定性関係	ハイゼンベルグの不確定性関係	
		10週	シュレーディンガー方程式	ハミルトニアン, 波動関数	
		11週	自由粒子・箱の中の粒子	固有値, 固有状態	
		12週	井戸型ポテンシャル中の粒子	井戸型ポテンシャル, 境界条件	
		13週	粒子のトンネル効果	ポテンシャル障壁, 反射率, 透過率	
		14週	問題演習	期末試験に向けた問題演習	
		15週	期末試験の答案返却		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		期末試験	レポート課題	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	システムデザイン
科目基礎情報					
科目番号	0014		科目区分	専門関連 / 必修	
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:4	
教科書/教材	参考になる図書, 情報, 文献などを自分, またはグループで探すことが必要となる。				
担当教員	鄭 耀陽, 小出 瑞康, 鈴木 晴彦, 植 英規, 梅澤 洋史, 齊藤 充弘, 芥川 一則, 若林 晃央, 丹野 淳, 森 崇理				
到達目標					
①制約のある課題に対し多角的な解決手法を立案できること。 ②チームワークにより複数の知識と技術を融合し, 具体的な企画内容の立案あるいは設計製作の計画ができること。 ③倫理的視野に立ち製作物の自然および社会への影響について考察できること。 ④「企画書」, 「製作物の説明」, 「発表会」などによりプレゼンテーション能力を身につけること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
多角的な解決方法の立案について	制約のある課題に対し多角的な解決手法を立案できる。	制約のある課題について理解し, 自分なりの解決手法を提示することができる。	制約のある課題について理解していない。		
具体的な企画立案について	複数の知識と技術を融合し, チーム内で主導的に具体的な企画立案ができる。	複数の知識と技術を融合し, 具体的な企画立案ができる。	具体的な企画立案ができない。		
倫理的視野に立った考察について	倫理的視野に立ち製作物の自然および社会への影響について考察し, 具体的な提案ができる。	倫理的視野に立ち製作物の自然および社会への影響について考察できる。	倫理的視野に立った考察ができない。		
プレゼンテーション能力について	企画書や発表会などで優れたプレゼンテーションを行うことができる。	企画書や発表会などで適切なプレゼンテーションを行うことができる。	適切なプレゼンテーションを行うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	専門の異なる複数の学生によって構成されるグループにより, 現代の地域社会の抱える課題や, 産業製品の必要性等を探査し, その課題解決に必要なアイデアや技術的手法, プロセス, 具体的な製品・試作のデザインや設計・製作, および社会的・産業的価値を評価する能力を育成するコース複合型PBL教育のための演習である。				
授業の進め方・方法	異なる専門分野の学生でグループを組み, 各産業分野特有のトピックに応じたグループワーク (実習や調査など) を行うことを基本とする。なお, 必要な技術や知識を得るための個人ワークを行う場合もある。グループワークでは, インターネットや書籍等での調査に加え, 自治体や関連分野の実務家とのディスカッションを行う場合もある。「取組状況 (個人, グループ評価)」を50%, 「報告書・提出資料 (グループ評価)」を30%, 「発表会 (グループ評価)」を20%とし, 総合的に評価し, 60点以上を合格とする。				
注意点	PBL学習は, 広範な知識や技術, また現実社会に対する多角的な視野をもって取組む必要がある。グループワークを行うにあたっては, 社会実装を意識して活動することが望ましい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	社会実装, PBL 近年のシステムデザインの事例	
		2週	SDGs	SDGsの基礎と実例	
		3週	地域課題に対する調査検討	グループによる調査検討	
		4週	地域課題に対する調査検討	グループによる調査検討	
		5週	地域課題に対する調査検討	グループによる調査検討	
		6週	地域課題に対する調査検討	グループによる調査検討	
		7週	地域課題に対する調査検討	グループによる調査検討	
		8週	地域課題に対する調査検討	グループによる調査検討	
	2ndQ	9週	ものづくり実習	3Dモデリング, 3Dプリンタ	
		10週	ものづくり実習	3Dモデリング, 3Dプリンタ	
		11週	ものづくり実習	3Dモデリング, 3Dプリンタ	
		12週	ものづくり実習	マイコン制御, 組み込みシステム	
		13週	ものづくり実習	マイコン制御, 組み込みシステム	
		14週	ものづくり実習	マイコン制御, 組み込みシステム	
		15週	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの概要	
		16週			
後期	3rdQ	1週	機械・電気分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等	
		2週	機械・電気分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等	
		3週	機械・電気分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等	
		4週	機械・電気分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等	
		5週	機械・電気分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等	
		6週	機械・電気分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等	

4thQ	7週	化学・バイオ分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	8週	化学・バイオ分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	9週	化学・バイオ分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	10週	都市システム分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	11週	都市システム分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	12週	都市システム分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	13週	ビジネスコミュニケーション分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	14週	ビジネスコミュニケーション分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	15週	ビジネスコミュニケーション分野のグループワーク	グループによる調査検討, 実習等
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	取組状況	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	生産管理論		
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分	専門関連 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書は指定しない。						
担当教員	杉山 武史						
到達目標							
①生産管理の目的・位置づけ・概要・構成機能・業務プロセス・組織・課題について、その内容が説明できる。 ②講義で取り上げた生産管理に関わる各種管理手法や実施方式について、特徴と一般的な適用ケースを説明でき、論理を理解した上で基本的な計算が行える。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。			
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	生産管理の目的・概要・課題を学ぶ						
授業の進め方・方法	講義・演習の形式で授業を行う。 期末試験70%、課題30%にて評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	問題を自力で解き、概念の理解に努めること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	数理解最適化 (1)	モデリングと定式化			
		2週	数理解最適化 (2)	最適化条件			
		3週	数理解最適化 (3)	ソルバーとアルゴリズム			
		4週	数理解最適化 (4)	LPの双対理論			
		5週	サプライチェーン (1)	生産計画 (1)			
		6週	サプライチェーン (2)	生産計画 (2)			
		7週	ネットワーク理論 (1)	ネットワークとグラフ			
		8週	ネットワーク理論 (2)	最短路問題			
	2ndQ	9週	ネットワーク理論 (3)	ネットワークフロー問題			
		10週	ネットワーク理論 (4)	ネットワークフロー問題			
		11週	スケジューリング	スケジューリング			
		12週	シミュレーション (1)	シミュレーション			
		13週	シミュレーション (2)	乱数とシミュレーション			
		14週	シミュレーション (3)	モンテカルロシミュレーション			
		15週	総合演習	期末試験解答用紙の返却・解説、総合復習			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	環境保全工学	
科目基礎情報							
科目番号	0016		科目区分	専門関連 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	配布資料						
担当教員	押手 茂克, 原田 正光						
到達目標							
①自然の浄化機能について授業計画にある内容が説明できる。 ②河川、湖沼、沿岸域の環境保全手法について授業計画にある内容が説明できる。 ③PRTR法やMSDSなどを理解し、化学物質の安全管理の基礎的事項を理解できる。 ④発生した化学物質の分析の概要が説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	自然環境問題および自然の浄化機能について解説し、河川、湖沼、沿岸域における環境保全手法について事例を挙げて講述する。そして、人間社会の大量生産・消費で発生した化学物質について、リスク管理と評価及び環境分析の概要を講義する。						
授業の進め方・方法	試験の成績を80%、課題等の成績を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、課題を実施する。						
注意点	前半の授業では課題は第8週目に提出すること。なおその成果は試験で確認する。後半の授業では定期的な課題・小テストの実施と、最後の試験で総合的に確認する。課題・小テストの状況から、各自達成度を把握してさらに自習すること。 *後半の授業では計算を行うことがあるので関数電卓を準備しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	自然環境問題と保全工学	生態系の構造、自然環境問題			
		2週	生態系における物質循環	生物生産、有機物分解、食物連鎖			
		3週	河川環境	自浄作用とそのモデル化			
		4週	湖沼環境	富栄養化現象とそのモデル化			
		5週	干潟環境	干潟と湿地の浄化のしくみ			
		6週	環境中の放射性物質の動態	放射性セシウム、水循環系における動態			
		7週	環境修復技術	礫間接触酸化法、強制循環曝気法、人工干潟、人工湿地、ミチゲーション、生態工学			
		8週	化学物質(1)	PRTR法、リスクコミュニケーション			
	2ndQ	9週	化学物質(2)	リスクとハザード、MSDS			
		10週	環境リスクと評価(1)	リスク評価の考え方			
		11週	環境リスクと評価(2)	暴露量評価、演習			
		12週	環境リスクと評価(3)	暴露量評価、演習			
		13週	環境分析	分析法の概要			
		14週	学習内容の整理	環境保全の学習内容 (1~7週、及び、8~13週) の重要な点を整理/確認			
		15週	環境保全工学の総括/学習内容の確認	環境保全工学のまとめ			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	新事業開発		
科目基礎情報							
科目番号	0021	科目区分	専門関連 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)	対象学年	専1				
開設期	前期	週時間数	2				
教科書/教材	配布資料						
担当教員	大川口 信一, 湯川 崇						
到達目標							
①新事業開発のプロセスを理解する。 ②情報の収集方法とまとめ方を身に付ける。 ③ビジネスプランの作成演習を通じて問題解決方法、案件組成能力を身に付ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	市場・顧客ニーズをどのように見出して、具体的に事業化していくか。その手法とプロセスについて学んだ上で、個人またはチームによりアイデア探索を行う。						
授業の進め方・方法	講義と演習を合わせた形式で授業を行う。定期的に課題レポートの提出を求める。また、当該課題レポートの内容について授業中の発表を求める。期末試験の成績を60%、課題を40%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	日頃から新規創業 (起業) に関するニュース、特に福島県内・いわき市内でのニュースに注意を払うこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	イントロダクション	起業を取り巻く諸環境と起業の意義			
		2週	新事業開発とは何か	新事業開発の具体的事例			
		3週	新事業開発のプロセス	新事業開発のためのフレームワーク			
		4週	新事業開発のプロセス	事業環境分析の方法			
		5週	新事業開発のプロセス	事業戦略分析の方法			
		6週	新事業開発のプロセス	ビジネスプランの作成方法			
		7週	新事業開発のプロセス	新規事業の財務戦略			
		8週	開発立案とリサーチ	定量的アプローチの方法			
	2ndQ	9週	開発立案とリサーチ	定性的アプローチの方法			
		10週	開発テーマ探索	実習の進め方、テーマ探索			
		11週	開発テーマ探索	テーマ発表、アイデア探索			
		12週	新事業アイデア探索	アイデア発表、ビジネスモデル策定			
		13週	新事業アイデア探索	ビジネスモデル発表、資金・利益計画策定			
		14週	新事業アイデア探索	ビジネスプラン発表			
		15週	まとめ	総括、期末試験の解説			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	現代英語Ⅲ	
科目基礎情報						
科目番号	0023		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Understanding English Grammar and Usage 南雲堂					
担当教員	本田 崇洋					
到達目標						
リーディングスキルを中心に英語力を伸ばします。精読と速読の両方の技術を磨きます。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	学習内容をに身につけ、それをもとに発展した考えをもつことができる		学習内容を理解し、おおよそ身につけている		学習した内容が身につけていない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	テキストを中心に進めます。これまで得た英語の知識や能力の再確認とともに、さらに応用力のある英語力を養います。					
授業の進め方・方法	定期試験80%、課題20%として60点以上を合格とする。					
注意点	予習と復習を前提としている授業です。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業の進め方 unit1	速読、内容理解		
		2週	unit1	精読、練習問題		
		3週	unit2	速読、内容理解		
		4週	unit2	精読、練習問題		
		5週	unit3	速読、内容理解		
		6週	unit3	精読、練習問題		
		7週	unit4	速読、内容理解		
		8週	unit4	精読、練習問題		
	2ndQ	9週	unit5	速読、内容理解		
		10週	unit5	精読、練習問題		
		11週	unit6	速読、内容理解		
		12週	unit6	精読、練習問題		
		13週	unit7	速読、内容理解		
		14週	unit7	精読、練習問題		
		15週	まとめ	まとめ		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

			<p>中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
	英語運用能力の基礎固め	<p>日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
		<p>日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
		<p>説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
		<p>平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
		<p>日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
		<p>母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
		<p>実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
		英語運用能力向上のための学習	<p>自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
	<p>英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。</p>		4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
	<p>英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。</p>		4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
	<p>母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。</p>		4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14	

			<p>関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			<p>関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			<p>関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			<p>英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			<p>実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。</p>	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	グローバル研修
科目基礎情報					
科目番号	0027		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	高野 克宏				
到達目標					
1. グローバルに関する課題、作業に関して積極的に、自発的に取り組むことができる。 2. 課題解決に必要なコミュニケーション能力を用いて、自らの意見を説明することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	グローバルに関する課題、作業、研修に規定時間以上取り組み、成果をあげる。		グローバルに関する課題、作業、研修に規定時間以上取り組みむ。		グローバルに関する課題、作業、研修に規定時間以上取り組みむことができない。
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	グローバルに関する研修に参加し、研修をととして、国際的に活躍できる能力を持つ実践的技術者、ビジネスパーソンを育成する。				
授業の進め方・方法	研修期間は休業中の本科30時間以上・専攻科45時間以上であることを原則とする。ただし、国際学会及び国際フォーラム・フェアにおけるにおける外国語での発表、その他国際化・SDGs推進センター長が事前に承認した場合には、授業期間中における活動を認め、事前の発表準備及び学習の時間も活動時間の一部とみなすことができる。				
注意点	提出された活動記録書の活動内容及び時間数、並びに報告書の内容を国際化・SDGs推進センター及び教務委員会で総合的に審査し、グローバル活動の総括時間が30時間以上の場合に合格とし、グローバル研修の単位として認定する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	以下のいずれかの研修を授業項目として認める 1. JSTS, ISTS 2. 国際学会及び国際フォーラム・フェアなどによる外国語による研究発表 3. 語学研修 4. 文化体験型海外研修 5. 国際ボランティア活動 6. 海外におけるインターンシップ 7. その他、国際化・SDGs推進センター長が認めたもの		
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	現代分析化学	
科目基礎情報							
科目番号	0021		科目区分	専門 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	必要な資料・演習問題などは配布する。 / 参考書として、準学士過程で使用した分析化学の教科書 (奥谷忠雄他, 基礎教育 分析化学, 東京教学社) などを利用するとよい。						
担当教員	押手 茂克						
到達目標							
①定量分析の基礎たる化学量論的な立式ができるようになること ②化学平衡と定量の関連性を理解すること ③錯体生成平衡を理解し, 分析化学的問題に応用できること ④沈殿平衡を理解し, 沈殿分離に応用できること ⑤分配平衡の基礎的知識を理解し, 溶媒抽出での分配比や抽出率などの数的取扱いを理解すること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	産業技術の基礎としての重要な濃度の表し方・平衡・分離を基礎とする分析化学について、講義及び演習によって原理と応用を学習する。濃度・平衡・分離の基礎知識を復習するとともに、それを用いた分析法の代表的な例題の演習を交えながら量的な取扱いを身につける。						
授業の進め方・方法	期末試験を実施する。期末試験を成績を80%, 課題等の成績を20%とし、総合的に評価する。60点以上を合格とする。この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、課題を実施する。						
注意点	準学士過程で学んだ分析化学、物理化学の基礎事項を復習しておくこと。計算演習も行うので、電卓を持参しておくこと。到達目標の達成に至るようによく考えながら講義に臨むこと。自学自習の確認方法: 定期的な課題等の実施により、課題等の状況から確認する。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	酸塩基平衡 (1)	平衡定数, 弱酸・弱塩基の水溶液, 量的取扱い			
		2週	酸塩基平衡 (2)	平衡定数, 塩の水溶液, 量的取扱い			
		3週	酸塩基平衡 (3)	多酸塩基・多酸塩基の水溶液, 量的取扱い			
		4週	酸塩基平衡 (4)	緩衝作用, 緩衝溶液, 量的取扱い			
		5週	酸塩基平衡 (5)	酸塩基滴定, 滴定曲線, 滴定誤差			
		6週	錯体生成平衡 (1)	全生成定数, 逐次生成定数, 量的取扱い			
		7週	錯体生成平衡 (2)	配位子濃度と生成錯体イオン種の分布			
		8週	錯体生成平衡 (3)	配位子濃度と生成錯体イオン種の分布			
	2ndQ	9週	沈殿平衡 (1)	沈殿分離, 共通イオン効果			
		10週	沈殿平衡 (2)	沈殿分離, 酸塩基平衡との競合			
		11週	沈殿平衡 (3)	沈殿分離, 定量的沈殿と分別沈殿			
		12週	溶媒抽出 (1)	分配平衡, 分配係数, 分配比, 抽出率			
		13週	溶媒抽出 (2)	有機酸の分配平衡, 分配比とpHの影響			
		14週	溶媒抽出 (3)	金属錯体の抽出, 分配比とpHの影響			
		15週	まとめ	まとめ			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	10	0	0	0	0	50
専門的能力	40	10	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	材料科学	
科目基礎情報							
科目番号	0026		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	適宜プリントを配布する。						
担当教員	松尾 忠利						
到達目標							
①材料の内部構造と性質との関連を理解する。 ②材料の性質を改良あるいはコントロールする方法を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	材料の内部構造と性質との関連に重点を置き、材料の挙動を理解するための概念的な枠組みを示す。また、材料の性質を改良あるいはコントロールする方法についても解説する。						
授業の進め方・方法							
注意点	材料科学に関わる諸現象を理解し、それらの技術開発への応用を考えながら履修すること。課題レポートの提出により自学自習を確認する。 定期試験の成績を80%、小テストや課題の総点を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
	週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	材料の歴史		材料の変遷		
		2週	原子構造と結合		原子構造、原子の結合・分子の結合		
		3週	材料の結晶構造		結晶構造と単位胞、金属の結晶構造		
		4週	材料の結晶構造		ミラー指数、最密充填構造		
		5週	固体の不完全性		合金・金属の固化、固体の不完全性、転位		
		6週	固体の不完全性		界面欠陥、バルク欠陥、欠陥の観察法		
		7週	固体の拡散		固体中の拡散機構、定常状態拡散		
		8週	状態図		相律、一成分・二成分状態図		
	2ndQ	9週	材料の電気的性質		導体、絶縁体、半導体の基礎		
		10週	材料の電気的性質		半導体材料、セラミック材料		
		11週	材料の電気化学的性質		腐食		
		12週	材料の光学的性質		光と電磁スペクトル、発光、光ファイバー		
		13週	材料の磁気的性質		磁場、磁性		
		14週	材料の加工技術		薄膜加工、結晶成長、成形		
		15週	複合材料		複合材料の構築と分類		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	特別研究Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0031		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 10		
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2		
開設期	通年		週時間数	前期:14 後期:16		
教科書/教材	各テーマについて指導教員より指示がある。					
担当教員	柴田 公彦, 齊藤 充弘					
到達目標						
①応用化学の幅広い知識が要求される課題に対して、問題解決に向けた計画を自ら立案できる。 ②継続的に研究計画を遂行するとともに、想定外の問題を解決する能力を身につける。 ③実験データの整理・分析等を行い、適切な解析および考察ができる力を養う。 ④研究成果を報告書や論文にまとめ、学内外で発表することを通じて、ディスカッションやプレゼンテーション能力を身につける。 ⑤研究室における活動を通じてチームワークやリーダーシップ能力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	到達目標の内容を实践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を实践で理解している。	到達目標の内容を实践で理解していない。			
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	担当教員の指導の下に、自ら課題を設定してその課題解決のために取り組むことで、専門知識を活用して、さらに深い専門能力の進展を図り、探索的な学習を通じて課題解決能力、研究能力、デザイン能力、プレゼンテーション能力を育成する。また、研究活動を通じてチームワークやリーダーシップを発揮する能力、計画遂行能力などを育成する。【クラス分け方式】					
授業の進め方・方法	【クラス分け方式】 ガイダンスとクラス振り分け。テーマの決定、関連する文献調査・参考資料作成 実験、調査、データの整理と分析 結果のとりまとめと研究論文の作成、発表会の開催 <テーマ> ・粉粒体の製造にかかわるプロセッシングとハンドリング時の力学的現象の研究 (車田研一教授) ・種々のアモルファスガラス素材の製造にかかわるプロセッシングとその熱的誘導体の構造と応用に関する研究 (車田研一教授) ・機能性コロイドの作製とその界面制御に関する研究 (車田研一教授) ・動物における新規生体分子の分布、代謝および機能に関する研究 (柴田公彦准教授) ・新規有機2次非線形光学材料の合成と評価に関する研究 (梅澤洋史教授) ・生物の環境ストレス耐性因子(細胞構造)の同定・機能解析・応用に関する研究(十亀陽一郎助教) ・新規ナノ薬剤の合成と評価に関する研究 (梅澤洋史教授) ・環境中の微量有害・有用物質の新しい分離・濃縮法の開発と環境試料の計測・回収法への応用に関する研究 (押手茂克准教授) ・環境保全および社会的有用物質創成のための新規有機合成反応の開発 (梅澤洋史教授、森崇理准教授) ・多置換芳香族化合物を用いた機能性化合物の精密合成に関する研究 (梅澤洋史教授、森崇理准教授、三上進一助教) ・環境保全を目指した高効率分離・回収及び高感度計測方法の開発 (加藤健准教授) ・循環型社会構築のための触媒的有機合成反応の開拓 (森崇理准教授)					
注意点	研究能力の育成と向上のために、積極的かつ自主的な取り組みが望まれる。定期的にレポートの提出を課する。さらに原則として学会等での発表を義務づける。 研究遂行を50%、報告書の内容を30%、プレゼンテーションを20%として評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				

		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
		4thQ	9週	
	10週			
	11週			
	12週			
	13週			
	14週			
	15週			
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	取組状況	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	インターンシップA	
科目基礎情報						
科目番号	0032		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)	対象学年	専2			
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	なし					
担当教員	鄭 耀陽, 植 英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘					
到達目標						
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	到達目標の内容を実践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を実践で理解している。	到達目標の内容を実践で理解していない。			
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成するとともに、実習報告会を通じてプレゼンテーション能力を高める。インターンシップAは必修であり、2週間(実質10日-80時間)の実習、10時間のまとめ(報告書作成、報告会資料作成、報告会プレゼンテーション)で2単位とする。コース長が、事前指導、事後の報告書作成指導、報告会の発表指導を行う。 この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。					
授業の進め方・方法	【クラス分け方式】 ①事前ガイダンス、履歴書・必要提出書類等の作成指導 ②実習 ③実施報告書の作成、実施報告会の開催 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、上記①、③を実施する。					
注意点	社会人としての基本的なマナー(言葉づかい、挨拶、礼儀作法等)に十分な注意を払うこと。 実習先からの実習記録票、実習報告書および実習報告会における発表等の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				

		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	インターンシップB
科目基礎情報					
科目番号	0033		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	なし				
担当教員	鄭 耀陽, 植 英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘				
到達目標					
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	到達目標の内容を实践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を实践で理解している。	到達目標の内容を实践で理解していない。		
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成する。必修のインターンシップAの他に2週間の実習及びまとめを行い2単位とする。この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。				
授業の進め方・方法	【クラス分け方式】 ①事前ガイダンス、履歴書・必要提出書類等の作成指導 ②実習 ③実施報告書の作成 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、上記①、③を実施する。				
注意点	社会人としての基本的なマナー（言葉づかい、挨拶、礼儀作法等）に十分な注意を払うこと。実習先からの実習記録票、実習報告書の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			

		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	インターンシップC
科目基礎情報					
科目番号	0034		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験及び特別研究		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	なし				
担当教員	鄭 耀陽, 植 英規, 柴田 公彦, 齊藤 充弘				
到達目標					
①実践的・技術的感覚を養うことができる。 ②技術に対する社会の要請を知り、問題意識を養うことができる。 ③現場で働くことにより、確かな職業観を形成することができる。 ④創造性、チャレンジ精神および変化に対する柔軟性などを身につけることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	到達目標の内容を实践で理解し、応用できる。	到達目標の内容を实践で理解している。	到達目標の内容を实践で理解していない。		
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	長期休業中に企業現場での就業体験、大学等での研究体験を通して、専門分野における高度な知識・技術に触れることにより、実践的・技術的感覚、確かな職業観、変化に対する柔軟性を育成する。インターンシップA, Bの他に2週間の実習及びまとめを行い2単位とする。 この科目は、校外の実習先で日頃から専門分野の実務経験に携わる技術者より基本事項の教授を受けたり、現場での指導者による実習を通して実践的に学習する授業である。				
授業の進め方・方法	【クラス分け方式】 ①事前ガイダンス、履歴書・必要提出書類等の作成指導 ②実習 ③実施報告書の作成 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、上記①、③を実施する。				
注意点	社会人としての基本的なマナー (言葉づかい、挨拶、礼儀作法等) に十分な注意を払うこと。 実習先からの実習記録票、実習報告書の内容を100%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			

		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告・発表等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用有機化学		
科目基礎情報							
科目番号	0035		科目区分	専門 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	配布資料						
担当教員	梅澤 洋史, 森 崇理						
到達目標							
①有機化学の基礎的および応用的知識の定着。 ②有機化合物および有機化学反応について理解すること。 ③生体内有機化合物について理解すること。 ④生体内有機化合物の代謝について理解すること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	産業技術や生物、日常生活の有機化学的基本概念に焦点をあて、その原理と応用について学習する。有機化学に関する問題解決法について紹介するとともに、例題を用いて知識および理解の向上を図る。						
授業の進め方・方法	期末試験は90分の試験を実施する。 定期試験の成績80%、課題等20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 自学自習の確認方法：定期的に課題を与え、提出させる。						
注意点	本科の関連科目の理解を前提に授業を進めるので理解していないところは復習しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	有機化合物 (1)	混成軌道と電気陰性度を理解できる。			
		2週	有機化合物 (2)	構造式と分類、命名法を理解できる。			
		3週	有機化学反応 (1)	アルカン、アルケン、アルキン、芳香族化合物の反応を理解できる。			
		4週	有機化学反応 (2)	ハロゲン化アルキル、アルコール、エーテルの反応を理解できる。			
		5週	有機化学反応 (3)	カルボニル化合物、アミンの反応を理解できる。			
		6週	有機化合物の構造解析 (1)	赤外分光法、核磁気共鳴分析法等を利用した有機化合物の構造解析を理解できる。			
		7週	有機化合物の構造解析 (2)	赤外分光法、核磁気共鳴分析法等を利用した有機化合物の構造解析を理解できる。			
		8週	糖質 (1)	糖質を理解できる。			
	2ndQ	9週	糖質 (2)	糖質代謝を理解できる。			
		10週	脂質 (1)	脂質を理解できる。			
		11週	脂質 (2)	脂質代謝を理解できる。			
		12週	核酸とタンパク質 (1)	核酸を理解できる。			
		13週	核酸とタンパク質 (2)	タンパク質の合成を理解できる。			
		14週	タンパク質とアミノ酸代謝 (1)	タンパク質とアミノ酸代謝を理解できる。			
		15週	タンパク質とアミノ酸代謝 (2)	総括的な演習			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	構造物理化学		
科目基礎情報							
科目番号	0036		科目区分	専門 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	(1) P.W. Atkins and J. de Paula, アトキンス物理化学要論 第6版, 東京化学同人 (2) 梶本興亜, ステップアップ基礎化学, 培風館						
担当教員	内田 修司, 加藤 健						
到達目標							
①化学結合論を身に付け、原子や分子の構造について、またその決定方法について理解している。 ②現在知られている固体の化学的構造と、それを探索・決定する実験的手法について理解している。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	物質の仕組みを理解する上で重要な、分子および固体の構造の物理化学について、講義および問題演習によって学ぶ。これまで学んだ化学の知識をもとに、原子や分子の構造や電子構造について理解し、分子科学研究を行う上での基礎を身につける。また、結晶の特徴および分類方法、結晶構造の決定方法などを理解し、固体研究を行う上での基礎を身につける。						
授業の進め方・方法	期末試験は90分の試験を実施する。 定期試験の成績を70%、小テストや課題の総点を30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 自学自習の確認方法：定期的に課題を与え、その定着度を確認する。						
注意点	準学士課程で学んだ物理化学、無機化学、有機化学の基礎事項を復習しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
	週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	原子の構造 (復習)		前期量子論, 水素原子模型, 原子構造		
		2週	分子の構造 (復習)		分子構造と分子の形, 原子価結合法		
		3週	構造解析 (1)		蛍光X線分析(XRF)		
		4週	構造解析 (1)		XRFの応用例		
		5週	構造解析 (1)		XRFの実例課題		
		6週	構造解析 (2)		FT-IR		
		7週	構造解析 (2)		FT-IRの応用例		
		8週	構造解析 (2)		FT-IRの実例課題		
	2ndQ	9週	構造解析 (3)		X線光電子分光分析(XPS)		
		10週	構造解析 (3)		XPSの応用例		
		11週	構造解析 (3)		XPSの実例課題		
		12週	構造解析 (4)		X線回折(XRD)		
		13週	構造解析 (4)		XRDの応用例		
		14週	構造解析 (4)		XRDの実例課題		
		15週	まとめ		試験解説, まとめ		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	35	15	0	0	0	0	50
専門的能力	35	15	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	生体分子機能工学	
科目基礎情報							
科目番号	0037		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	必要な資料などは配付する。課題や授業でノートパソコンが必要である。						
担当教員	十亀 陽一郎						
到達目標							
①生体分子の利用に関する基礎原理を理解する。 ②生体分子の利用に関する応用事例を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	生体分子の中でも特に重要な核酸とタンパク質に焦点をあて、分子生物学および遺伝子工学の基礎および応用、タンパク質化学および酵素工学の基礎および応用を講義する。						
授業の進め方・方法	期末試験は90分の試験を実施する。 定期試験の成績80%、課題等20%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。 自学自習の確認方法：定期的に課題を与え、提出させる。						
注意点	準学士過程の関連科目 (生物化学基礎, I, II など) の理解を前提に授業を進めるので、理解していないところは復習しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	タンパク質・酵素工学(1)	タンパク質の基礎知識			
		2週	タンパク質・酵素工学(2)	タンパク質工学の基本技術			
		3週	タンパク質・酵素工学(3)	タンパク質工学の基本技術			
		4週	タンパク質・酵素工学(4)	タンパク質工学の基本技術			
		5週	タンパク質・酵素工学(5)	酵素の基礎知識			
		6週	タンパク質・酵素工学(6)	酵素の応用			
		7週	タンパク質・酵素工学(7)	酵素の改変			
	4thQ	8週	遺伝子工学(1)	分子生物学の基礎			
		9週	遺伝子工学(2)	分子生物学の基礎			
		10週	遺伝子工学(3)	遺伝子工学の基礎			
		11週	遺伝子工学(4)	遺伝子工学の基礎			
		12週	遺伝子工学(5)	遺伝子操作技術の基礎			
		13週	遺伝子工学(6)	遺伝子工学の応用			
		14週	遺伝子工学(7)	遺伝子工学の応用			
		15週	まとめ	期末試験の解説、まとめ			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	応用合成化学	
科目基礎情報							
科目番号	0038		科目区分	専門 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	配布資料						
担当教員	梅澤 洋史						
到達目標							
①反応機構が分かり、炭素鎖の形成反応や芳香族化合物の反応が理解できる。 ②官能基の導入方法が分かり、種々の有機物質を合成する反応が理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	合成化学の立場から各種の有機反応の機構を理解し、付加価値の高い物質を合成する化学を分かりやすく講義する。						
授業の進め方・方法	期末試験は90分の試験を実施する。 定期試験の成績を80%、小テストや課題の総点を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 自学自習の確認方法: 定期的に課題を与え、提出させる。						
注意点	本科の有機化学基礎、有機化学Ⅰ、Ⅱの基礎の上により深く反応機構を理解し、これを有機合成の研究に使える段階に向上させること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	炭素鎖の形成(1)		各種アルドール反応を理解できる。		
		2週	炭素鎖の形成(2)		Michael付加、Perkin反応等を理解できる。		
		3週	炭素鎖の形成(3)		Knoevenagel縮合、Claisen縮合等を理解できる。		
		4週	炭素鎖の形成(4)		Wittig反応、Vilsmeier反応等を理解できる。		
		5週	芳香族化合物の合成(1)		求核置換反応による合成反応を理解できる。		
		6週	芳香族化合物の合成(2)		求核置換反応による合成反応を理解できる。		
		7週	芳香族化合物の合成(3)		芳香族ジアゾニウム塩を用いる合成反応を理解できる。		
		8週	芳香族化合物の合成(4)		側鎖の反応による合成法を理解できる。		
	2ndQ	9週	芳香族化合物の合成(5)		多環式芳香族化合物の合成を理解できる。		
		10週	芳香族化合物の合成(6)		複素環式芳香族化合物の合成反応を理解できる。		
		11週	官能基導入反応(1)		素炭素二重結合、炭素炭素三重結合の導入反応を理解できる。		
		12週	官能基導入反応(2)		ヒドロキシ基、アミノ基の導入反応を理解できる。		
		13週	官能基導入反応(3)		カルボニル化合物の合成法を理解できる。		
		14週	官能基導入反応(4)		エーテル結合の導入反応を理解できる。		
		15週	総復習		総括的な演習		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	応用材料化学		
科目基礎情報							
科目番号	0039		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	配布資料						
担当教員	梅澤 洋史, 森 崇理						
到達目標							
①金属系触媒材料の特徴や機能および触媒材料を用いた合成反応について化学的な観点から理解する。 ②種々の機能性材料の原理や構造的な特徴および分子設計について理解し、その機能を説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。			
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	機能性材料は、電子材料分野、医薬品分野、環境・エネルギー分野などの幅広い分野において利用され、高度に発展した現代社会を支えている。これら機能性素材の特徴や機能および製造方法を化学的な観点から理解することを目的とする。また、基礎的学習内容だけでなく、最近の研究トピックを学ぶことで、材料分野の動向を知ることができる。						
授業の進め方・方法	期末試験は90分の試験を実施する。 定期試験の成績80%、課題等20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 自学自習の確認方法：定期的に課題を与え、提出させる。						
注意点	本科の関連科目 (物理化学、無機化学、有機化学、高分子化学など) の基礎事項を復習しておくこと。暗記よりも本質を理解することに留意すること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	超分子材料、ナノ材料	超分子、ナノ材料の特徴を説明できる			
		2週	有機・無機ハイブリッド材料	PCP/MOFの特徴と機能を説明できる			
		3週	金属ナノクラスターと触媒材料	金属ナノクラスターの機能を説明できる			
		4週	金属系光触媒材料	光触媒の特徴と機能を説明できる			
		5週	遷移金属系触媒材料	遷移金属系触媒材料の特徴を説明できる			
		6週	機能性材料合成と触媒反応	合成における触媒反応を説明できる			
		7週	触媒材料を用いた最新研究の紹介	触媒材料の最近の動向を理解する			
		8週	機能性材料(1): 記録材料	記録材料の原理と応用について理解できる。			
	2ndQ	9週	機能性材料(2): 微粒子材料(1)	微粒子材料の原理と作製法を理解できる。			
		10週	機能性材料(3): 微粒子材料(2)	微粒子材料の応用について理解できる。			
		11週	機能性材料(4): 機能性有機色素(1)	機能性有機色素の原理を理解できる。			
		12週	機能性材料(5): 機能性有機色素(2)	機能性有機色素の特徴と事例を理解できる。			
		13週	機能性材料(6): 有機発光材料(1)	有機発光材料の原理を理解できる。			
		14週	機能性材料(7): 有機発光材料(2)	有機発光材料の特徴と事例を理解できる。			
		15週	総括	総括と期末試験の解説			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題等	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	電力流通工学		
科目基礎情報							
科目番号	0022	科目区分	専門関連 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)	対象学年	専2				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	担当教員より適宜プリント等を配布する。						
担当教員	橋本 慎也						
到達目標							
①電力流通システムの内容について理解する。 ②電力システムの制御 (周波数, 電圧), 安定度維持について理解する。 ③電力システムの経済運用, 電源計画, 信頼度について理解する。 ④電力分野における新しい動向及び技術を学ぶ。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
電力システムの周波数・電圧制御および安定度維持について	電力システムの周波数・電圧制御および安定度維持について理解し、応用できる。	電力システムの周波数・電圧制御および安定度維持について理解している。	電力システムの周波数・電圧制御および安定度維持について理解していない。				
電力システムの経済運用・電源計画・信頼度について	電力システムの経済運用・電源計画・信頼度について理解し、応用できる。	電力システムの経済運用・電源計画・信頼度について理解している。	電力システムの経済運用・電源計画・信頼度について理解していない。				
電力分野における新しい動向・技術について	電力分野における新しい動向・技術について理解し、応用できる。	電力分野における新しい動向・技術について理解している。	電力分野における新しい動向・技術について理解していない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	電力流通システムの構築、電力の供給・輸送・配分などについて理解し、電力システムの制御・経済運用などを学ぶ。さらに、再生可能エネルギーの導入、電力自由化、「スマートグリッド」などにおける新しい電力分野の動向について理解し、技術動向について認識する。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学修として、演習やレポートを実施する。定期試験の成績を80%、演習やレポートの成績を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	電気回路、電子回路、電気工学基礎等の基礎知識が必要であるので、自習しておくことが望ましい。自学自習の確認方法：小テストやレポートを定期的に変更し、確認する。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	概論	電力流通システムの概要、電力設備の概要			
		2週	電力の需給バランス	電力の需要と供給のバランス及び維持方策			
		3週	電力システムの制御 (1) (周波数制御 1)	周波数制御のメカニズム (局所的な周波数制御)			
		4週	電力システムの制御 (1) (周波数制御 2)	周波数制御のメカニズム (全域的な周波数制御)			
		5週	電力システムの制御 (2) (電圧制御 1)	電力ネットワーク、有効・無効電力と系統特性			
		6週	電力システムの制御 (2) (電圧制御 2)	無効電力を用いた電圧の制御			
		7週	電力システムの経済運用 (1)	電力システムの経済運用、火力発電所の経済負荷配分			
		8週	電力システムの経済運用 (2)	送電損失を考慮した経済負荷配分、他の経済運用、発電機の起動停止計画			
	4thQ	9週	電源開発計画	各種電源の特性、経済性から見たベストミックス電源計画			
		10週	電力システムの信頼度 (1)	電力システムのマクロ的な信頼度			
		11週	電力システムの信頼度 (2)	オンライン信頼度、信頼度の向上対策			
		12週	電力システムの安定度	電力システムの安定性、安定度向上対策			
		13週	電力自由化と系統技術 (1)	取引市場、需要予測と価格予測			
		14週	電力自由化と系統技術 (2)	電力自由化の影響、分散型電源、電力品質と電力流通サービス			
		15週	将来展望	スマートグリッドなど最近の電力分野の課題や技術動向について			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	都市経済学
科目基礎情報					
科目番号	0024	科目区分	専門関連 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	都市経済学の基礎、佐々木公明・文世一、有斐閣アルマ,プリント資料他				
担当教員	芥川 一則				
到達目標					
①都市の論理的形成を理解する。 ②都市の構造を理解する。 ③現実の問題の分析能力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 都市の論理的形成を理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2 都市の構造を理解する。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目3 現実の問題の分析能力を身につける。	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	都市の形成過程でみられる規模の経済、集積の経済について取り上げる。輸送費最小化の観点から見た企業の立地点、アロンソ型都市モデルにおける地代決定メカニズム、そして都市規模と都市システムについて講義する。				
授業の進め方・方法	期末試験は100分の試験を実施する。 定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後学習の確認として定期的に授業内容を整理しまとめたものを提出させる。				
注意点	自学自習の確認方法 - 課題プリントを学生に配布し、それを定期的に提出させる。 定期試験の成績を80%、課題を20%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	はじめに	導入と授業の進め方	
		2週	都市はなぜ形成されるのか (1)	機会費用、比較優位	
		3週	都市はなぜ形成されるのか (2)	規模の経済、集積の経済	
		4週	都市はどこに形成されるのか	輸送費最小化	
		5週	都市内の土地市場	地価と地代	
		6週	都市内土地利用と地代の決定 (1)	アロンソ型都市モデル	
		7週	都市内土地利用と地代の決定 (2)	家計の行動	
		8週	都市内土地利用と地代の決定 (3)	市場地代の決定	
	4thQ	9週	都市内土地利用と地代の決定 (4)	土地利用の効率性	
		10週	都市内土地利用と地代の決定 (5)	企業の立地行動	
		11週	サブセンターの形成	都市の拡大とサブセンター	
		12週	土地利用の規制	ゾーニングの必要性	
		13週	都市規模と都市システム	市場都市と中心地理論	
		14週	総合復習 (1)	専門用語の確認	
		15週	総合復習 (2)	専門用語の確認	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		40	10	50	
専門的能力		20	5	25	
分野横断的能力		20	5	25	

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	応用メカトロニクス	
科目基礎情報							
科目番号	0025		科目区分	専門関連 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	「ロボット機構学」 鈴森康一 コロナ社						
担当教員	鄭 耀陽,野田 幸矢						
到達目標							
①ロボットアームの機構を理解する。 ②ロボットアームの運動を理解する。 ③ロボットアームの制御を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義ではロボットアームの構造・運動学の講義を通じて、メカトロニクスの本質的理解を目指す。						
授業の進め方・方法							
注意点	力学、線形代数等の基礎となる数学内容をよく復習しておくこと。 自学自習の確認方法：レポート・課題を提出させ、習得状況を確認する。 レポート・課題を20%、定期試験を80%の割合で総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	本講義の導入	メカトロとは、ロボットの形態と構造			
		2週	メカトロニクスのための数学	回転行列、ラプラス変換、ラプラス逆変換			
		3週	ロボットアームの姿勢表現	ロール、ピッチ、ヨー、オイラー角			
		4週	ロボットアームの駆動法	CP、PTP制御			
		5週	ロボットアームの運動学	順運動学、逆運動学			
		6週	ロボットアームの関節制御1	センサ、回路、アクチュエータ			
		7週	ロボットアームの関節制御2	PID制御			
		8週	ロボット機構の基礎	リンク、自由度、瞬間中心			
	2ndQ	9週	平面リンク機構の運動解析1	4節リンク機構の運動解析基本			
		10週	平面リンク機構の運動解析2	4節リンク機構の運動解析 (幾何法、数値法)			
		11週	ロボットアームの伝動機構1	歯車の基礎			
		12週	ロボットアームの伝動機構2	歯車伝動装置			
		13週	ロボットアームの伝動機構3	カムの分類・カム輪郭曲線の設計			
		14週	ロボットアームの伝動機構4	解析法によるカム輪郭曲線の設計			
		15週	総括	総合演習と復習			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	製品開発論	
科目基礎情報						
科目番号	0028	科目区分	専門関連 / 必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)	対象学年	専2			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	配布資料					
担当教員	芳賀 宏一郎, 湯川 崇					
到達目標						
①製品開発に関する基礎的な知識、理論について理解する。 ②製品開発における「考える」ことを通して、理解を深め実践的な知識を身に付ける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。	各授業項目の内容を理解している。	各授業項目の内容を理解していない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	「製品開発とは何か? 製品開発はどう進めるべきか? 製品開発を成功させるにはどうすべきか?」など、製品開発を行う上では基本的な知識、理論が必要であり、また開発を遂行する上では臨機応変に考える力が求められます。製品開発を構成する体系を押さえ、各体系要素の基本的な知識、理論を学びます。さらに、事例紹介から実際に学び、ケース・スタディーにより製品開発への理解を深めていきます。					
授業の進め方・方法	製品の企画から製品開発を進め、市場に展開する流れで自分自身が製品開発を行うとしたら、どう取り組むかについて考えることに主眼を置いて授業を進めます。方法としては、理論と事例による実感を踏まえ、ケース・スタディーによる検討、発表を中心とした方法とします。					
注意点	自学自習の確認方法: ケース・スタディーでの検討内容を確認します。 定期試験の成績80%、課題等20%で総合的に評価し、60点以上を合格とします。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	授業ガイダンス 学生と講師間のラ・ポール構築を図る。		
		2週	戦略を考える	何故この製品を開発するのか? 企業戦略と事業戦略の中での製品開発を理解する。		
		3週	顧客価値を掴む	どのような製品を開発するのか? シーズとニーズ、顧客志向を理解する。		
		4週	競争優位性とは何か	他の製品と何が違うのか? 競争優位、差別化について理解する。		
		5週	技術戦略を考える	製品化できる技術はあるか? 製品を具体化する上での技術を理解する。		
		6週	ケース・スタディー (1) 製品開発企画提案書の作成	自分の製品企画を会社に提案! 製品開発企画提案書の作成。		
		7週	ケース・スタディー (2) 製品開発企画提案 プレゼン実施	自分の製品企画を会社に提案! プレゼン・発表。		
		8週	成功要因を押さえる	どのように開発するのか? 成果を出す上での成功要因を理解する。		
	4thQ	9週	開発プロセスとは	どのように開発するのか? 成果を出す上でのプロセスを理解する。		
		10週	製品開発の組織を考える	どのように開発するのか? 成果を出す上での開発組織を理解する。		
		11週	企業間のサイマル化・ネットワークの重要性	製品化の技術力を強化するには? 製品を具体化するサイマル化・ネットワークを理解する。		
		12週	ケース・スタディー (3) 製品開発キックオフ資料の作成	自分の企画製品を開発キックオフさせる! 製品開発キックオフ資料の作成		
		13週	ケース・スタディー (4) 製品開発キックオフ プレゼン実施	自分の企画製品を開発キックオフさせる! プレゼン・発表		
		14週	スタート・アップ オープン・イノベーション	製品開発できる能力を広げる。 成功率を高める仕組みを理解する。		
		15週	まとめ	総括、期末試験の解説		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	産業安全工学総論	
科目基礎情報							
科目番号	0029		科目区分	専門関連 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	配布資料等						
担当教員	芥川 一則, 原田 正光, 大槻 正伸						
到達目標							
①現場での作業によって引き起こされる被害をイメージできリスクマネジメントが行える。 ②システム安全工学 (FTA, FMEAなど) を理解し、実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各工業分野で、現場における事故・災害の防止対策および発生時の対応策について具体的に事例を交えて学習する。また、放射能汚染や公害問題などの基本的な事項を理解し、その対策や改善手法の提案などができるようにする。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、定期的に課題を提出させる。定期試験の成績を70%、課題および小テストの成績を30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。						
注意点	担当者によって、課題提出を指示する。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	概論	自然災害と産業安全			
		2週	事例研究①	災害統計、安全評価、			
		3週	事例研究②	情報に関する安全、情報セキュリティ			
		4週	事例研究③	飛行機事故			
		5週	事例研究④	鉄道事故、輸送関連事故とヒューマンエラー			
		6週	放射線安全①	放射線 (1)			
		7週	放射線安全②	放射線 (2)			
		8週	放射線安全③	放射線 (3)			
	4thQ	9週	放射線安全④	放射線 (4)			
		10週	放射線安全⑤	放射線 (5)			
		11週	環境安全①	水資源とリスクマネジメント			
		12週	環境安全②	水道とリスクマネジメント			
		13週	環境安全③	公害からの環境保全			
		14週	環境安全④	原子力災害からの環境保全			
		15週	総括	総括			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	システム論		
科目基礎情報							
科目番号	0030		科目区分	専門関連 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	プリント等						
担当教員	大槻 正伸, 植 英規						
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・システムの概念が理解できる ・システムを解析する基本的手法が理解できる。 ・システムの最適化の基本的手法が理解でき、実際に簡単な問題に応用できる。 							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
システムの解析手法	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
システムの最適化手法	各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	システム的なものの見方を理解し、さまざまなシステムの解析手法について学ぶ。また重要なシステムの最適化手法について学ぶ。この科目は、企業でコンピュータシステム設計を担当した教員がその経験を生かし、システム解析等について講義を行う						
授業の進め方・方法	システムの解析の意義を理解したのち、線形計画の解析手法、最適化手法を学ぶ。後半はシステム解析のためのグラフの応用について学ぶ。この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、定期的にレポートを提出させる。評価方法 定期試験の成績を80%、小テストや課題の総点を20%として総合的に評価し60点以上を合格とする。						
注意点	代表的なシステムの解析手法を丁寧に解説するので、演習等を通して一つ一つ確実に理解すること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	システムとは何か、様々なシステム	システムとは何か、社会にみられる様々なシステム			
		2週	システム工学の目的、必要性、数学モデル	システムを解析することの重要性、数学モデルの必要性、様々な数学モデル			
		3週	システムと連立一次方程式 (1)	システムと連立一次方程式の関連、システム解析問題から導かれる連立一次方程式			
		4週	システムと連立一次方程式 (2)	連立一次方程式、線形代数の基礎、行列の基本演算			
		5週	システムと連立一次方程式 (3)	システム解析と連立一次方程式の解法 Gauss-Jordan法、または反復法について			
		6週	システムと連立一次方程式 (4)	連立一次方程式の解法プログラム (1) Gauss-Jordan法またはJacobi法、Gauss-Seidel法			
		7週	システムと連立一次方程式 (5)	連立一次方程式の解法プログラム演習			
	4thQ	8週	数値計画法、線形計画法	数値計画法、線形計画法、最適化問題			
		9週	シンプレックス法 (1)	シンプレックス法の基礎、スラック変数、標準形			
		10週	シンプレックス法 (2)	シンプレックス法と基底変数、基底解			
		11週	シンプレックス法 (3)	シンプレックス法アルゴリズム			
		12週	グラフ理論	システムを表現、解析するためのグラフ理論からの準備			
		13週	グラフ理論とシステム解析への応用	グラフで表現されるシステムの解析手法、SFGとMasonの方法			
		14週	グラフと輸送問題、最適化問題	グラフで表現された輸送問題、最短経路問題と線形計画法			
		15週	総合演習	演習問題を通して総合的に知識を整理する。			
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	科学技術史
科目基礎情報					
科目番号	0040		科目区分	専門関連 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	工学系卒論の書き方、別府俊幸・渡辺賢治、コロナ社				
担当教員	笠井 哲				
到達目標					
①近代以降の科学技術の歴史を概観し、その中における科学技術と人間・社会との関わりについて理解することができる。 ②科学技術史における人々の「真理と倫理のディレンマ」を追体験することで、技術者倫理の必要性を認識することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
基礎的能力	西洋近代以降の科学技術の歴史を理解し、自分の言葉で説明できる。	西洋近代以降の科学技術の歴史を理解できる。	西洋近代以降の科学技術の歴史を理解できない。		
専門的能力	授業で学習したことを、自分の言葉でまとめ直し、自分の意見を加えた報告書を提出できる。	授業で学習したことを、自分の言葉でまとめ直し、提出できる。	授業で学習したことを、自分の言葉でまとめ直すことができない。		
汎用的技能	書籍やインターネットにより、必要な情報を適切に収集ことができ、科学技術の歴史を追体験することで、技術者倫理の必要性を自覚することができる。	書籍やインターネットにより、必要な情報を適切に収集ことができ、科学技術の歴史を追体験することで、技術者倫理の必要性を認識することができる。	書籍やインターネットにより、必要な情報を適切に収集できず、科学技術の歴史を追体験できず、技術者倫理の必要性を認識することができない。		
態度・志向性	科学技術の歴史の学習を通して、技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に負っている責任を自覚している。	科学技術の歴史の学習を通して、技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	科学技術の歴史の学習を通して、技術が社会に及ぼす影響を認識しておらず、技術者が社会に負っている責任も認識していない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	現代社会の姿を深く理解し将来の展望をつかむため、我々の生活を大きく変えてきた西洋近代以降の科学技術の歴史について学習する。 それに基づいて、これからの社会において科学技術の果たす役割について考える。				
授業の進め方・方法	西洋近代の科学技術の黎明であるルネサンスや科学革命から始め、産業革命、二つの世界大戦、資本主義成立を経て、現代社会における科学技術について学習する。 この科目は学修単位科目のため、授業前に課題プリントを配付し調べさせ、授業後にプリントに授業内容をまとめたものを提出させる。 また、ビデオ教材も使用し、視聴後に意見をまとめてもらう。さらに、トピックを選び、グループディスカッションも実施する。 定期試験（期末のみ）を実施し、自学自習課題と総合的に評価し、60点以上を合格とする。 ただし、再試験の受験は定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。				
注意点	科学技術の歴史を「覚える」のではなく、「考える」という姿勢で受講してもらいたい。 毎回テーマを与え、自学自習の時間にレポートを作成させ提出させるので、授業をしっかりと理解すること。 理解できない点があれば、その都度積極的に質問すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	科学技術史とは何か		科学技術の歴史を学ぶ意義について理解できる。
		2週	ルネサンスと科学技術		ルネサンスの科学技術への関与について理解できる。
		3週	科学革命の構造		科学革命と近代科学の誕生について理解できる。
		4週	近代の技術的知性		ベーコンとデカルトの科学技術思想について理解できる。
		5週	産業革命と科学技術		産業革命の技術的基盤について理解できる。
		6週	産業革命の発展		産業革命と科学技術の展開について理解できる。
		7週	工学と技術教育の成立		「科学の制度化」と工学部の誕生について理解できる。
		8週	世界大戦と科学技術		化学兵器と原子爆弾の開発について理解できる。
	2ndQ	9週	資本主義と科学技術		アメリカにおける「科学の産業化」について理解できる。
		10週	現代社会と科学技術 (1)		技術革新がもたらしたものについて理解できる。
		11週	現代社会と科学技術 (2)		産業の発達に伴う公害や環境破壊について考え、SDGsについて理解できる。
		12週	現代社会と科学技術 (3)		バイオテクノロジーと遺伝子組み換えについて理解できる。
		13週	現代社会と科学技術 (4)		コンピュータの発達と社会の変化について理解できる。
		14週	現代社会と科学技術 (5)		原子力の安全性、科学技術の光と影について理解できる。
		15週	まとめ		14週までを踏まえ、SDGsの達成を目指す21世紀の科学技術について展望できる。

		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	試験	課題レポート	自学自習課題	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	30	0	0	30
専門的能力	30	10	0	40
汎用的技能	0	10	10	20
態度・志向性	0	0	10	10

福島工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	減災工学		
科目基礎情報							
科目番号	0041		科目区分	専門関連 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	産業技術システム工学専攻 (化学・バイオ工学コース) (R4年度から)		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	配布資料						
担当教員	緑川 猛彦, 原田 正光, 齊藤 充弘, 菊地 卓郎, 高荒 智子, 金 高義, 三浦 拓也						
到達目標							
①自然災害に対するハード面からの対策を説明できる。 ②自然災害に対するソフト面からの対策を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	主に自然災害による社会基盤施設の被災について、ハード・ソフト合わせた総合的な減災対策について学習する。						
授業の進め方・方法	都市システム工学科の教員7名がそれぞれの専門分野に関して順番に講義をする形式とする。中間試験は実施しない。期末試験は100分間の試験を実施する。定期試験の成績を70%、自学自習の課題の成績を30%として総合的に評価し、60点以上を合格とする。 この科目は学修単位科目のため、事前、事後の学習として、課題を実施する。						
注意点	減災についてハード、ソフト両面から総合的に解説するので、日頃から自然災害に興味を持ち様々な情報に触れておくことに努める。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
	週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス		授業方法の説明		
		2週	コンクリート構造物にまつわる災害の種類 (緑川)		コンクリート構造物の災害被害状況		
		3週	コンクリート構造物にまつわる災害の対策 (緑川)		コンクリート構造物の耐震方法		
		4週	自然環境の改変と災害 (原田)		自然環境の改変による災害発生の状況		
		5週	自然環境の保全と減災 (原田)		自然のしくみを利用した減災・防災手法		
		6週	都市災害の発生 (齊藤)		都市災害の特徴と都市に与える影響		
		7週	防災都市づくり (齊藤)		都市におけるハード・ソフト両面での防災・減災対策		
		8週	地盤にまつわる災害の種類 (三浦)		地盤災害について		
	2ndQ	9週	地盤にまつわる災害の対策 (三浦)		地盤災害に対する防災・減災について		
		10週	水にまつわる災害の種類 (菊地)		津波災害, 風水害による被害		
		11週	水にまつわる災害の対策 (菊地)		水災害に関する防災・減災対策		
		12週	地盤凍結に関する災害 (金)		凍上発生機構		
		13週	地盤凍結に関する防災対策 (金)		凍上災害に関する防災・減災対策		
		14週	災害によって発生する水利用問題 (高荒)		水の確保と公衆衛生		
		15週	上下水道分野における災害対策 (高荒)		水処理方法と水利用対策		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0